

# 千葉県体育学会大会 シンポジウム（令和6年度第1回）

～千葉県における部活動の地域移行に関する現状と課題～

令和6年5月11日（土）

市原市地方創生部地方創生課  
部活動地域移行アドバイザー 桐谷芳孝

# 本日も説明する内容

1. 市原市の概要
2. 推進体制
3. 令和5年度 of 取組
4. 令和6年度 of 取組
  - ① 指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築
  - ② 指導者育成(競技別プログラム)及び地域クラブ活動モデル構築(スポーツ教室)
5. 今後の展開について
6. 類型及び展開イメージについて

# 1. 市原市の概要 ①

## (1) 地 勢

- 千葉県のほぼ中央、都心から50km圏内に位置し、その範囲は、東京湾から房総丘陵にかけて、東西約22キロメートル、南北約36キロメートルと南北方向に長い。
- 市北部には石油化学工業をはじめとする大手企業が多数進出し、コンビナート群が形成・発展した。市南部は養老溪谷に代表される水と緑豊かな里山の風景が広がる。
- 昭和38年5月、五井、市原、姉崎、市津、三和の5町が合併して市原市が誕生、さらに昭和42年10月、南総町、加茂村を編入して今日の姿となった。
- 市原市の面積368.16km<sup>2</sup>は千葉県の市町村では最も大きく、関東では第14位の面積となる。

## (2) 人口と世帯（毎月常住人口調査 令和6年2月1日現在）

- 人口：263,687人 県内 6位
- 世帯：120,634世帯 県内 6位



# 1. 市原市の概要 ②

## (3) 学校数（令和5年度学校基本調査）

- 小学校 40校：県内5位 12,259人：県内7位
- 中学校 21校：県内5位 6,463人：県内6位

### 学校別編成方式別学級数・学年男女別生徒数

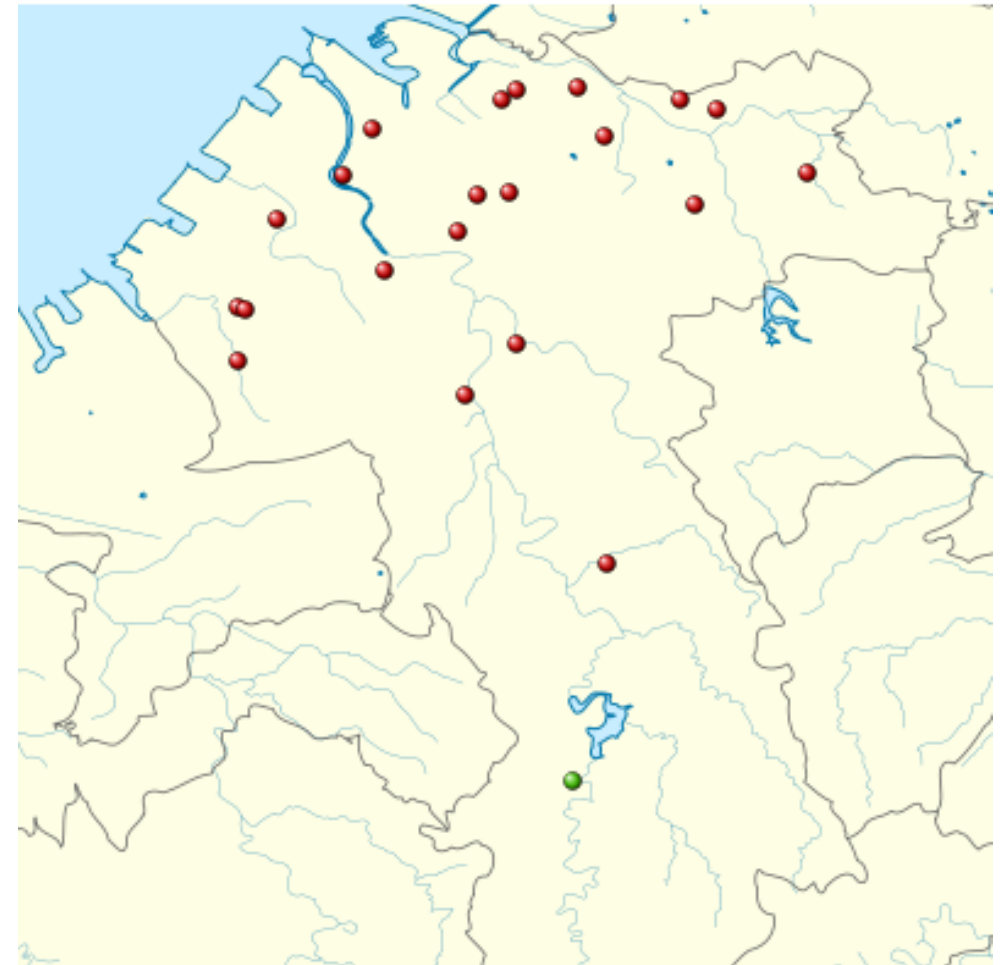
令和4年教育便覧より

No.	学校名	学級数	生徒数計	1学年		2学年		3学年	
				男	女	男	女	男	女
1	八幡中	20	584	91	116	92	93	97	95
2	菊間中	7	113	17	12	20	25	17	22
3	市原中	8	137	27	19	30	14	25	22
4	五井中	27	837	131	125	144	116	173	148
5	東海中	4	69	10	9	14	10	13	13
6	姉崎中	11	298	55	46	54	50	51	42
7	三和中	5	104	20	11	21	16	22	14
8	湫津中	7	136	31	22	25	23	17	18
9	市東中	5	49	9	9	11	5	9	6
10	辰巳台中	17	486	86	84	80	79	77	80
11	加茂中	4	45	8	8	12	2	5	10
12	南総中	10	231	30	39	44	42	33	43
13	吾葉中	12	302	41	48	50	52	46	65
14	有秋中	13	345	61	49	51	70	64	50
15	八幡東中	5	77	12	11	11	18	7	18
16	国分寺台中	11	306	60	40	49	50	56	51
17	姉崎東中	8	178	24	32	34	27	31	30
18	双葉中	9	228	47	43	41	28	36	33
19	千種中	14	394	68	50	74	68	66	68
20	国分寺台西中	14	394	61	64	71	70	66	62
21	ちはら台南中	24	748	127	107	124	135	119	136
22	ちはら台西中	15	450	81	86	76	77	81	49
計		250	6,511	1,097	1,030	1,128	1,070	1,111	1,075

注：No.15八幡東中は令和5年3月31日にNo.1八幡中に統合

市原市の中学校の分布 (赤:中学校、緑:小中一貫教育校)

Wikipedia「市原市の中学校一覧」より



## (4) 部活動の現状

- 本市の公立中学校数生徒数の推移は、平成元年から平成30年の間で公立中学校の生徒数は、全国と県が約4割、本市はでは5割の減となっており、今後もさらなる減少が予測される。
- 本市では生徒数やニーズに応じ部活動を設置しているが、部員数の減少に伴い、学校単位での大会参加が難しくなっていることや競技経験のない教職員による指導など、様々な課題を抱えている。

市原市学校部活動生徒数等・年次比較

競技名	平成30年度 (人)	令和4年度 (人)	増減数	増減率
陸上競技	193	133	▼60	-31%
水泳	44	26	▼18	-40%
サッカー	564	449	▼115	-20%
バスケットボール	692	535	▼157	-22%
軟式野球	32	280	▼43	-13%
ソフトボール	110	60	▼50	-45%
ソフトテニス	847	844	▼3	-3%
卓球	861	699	▼162	-18%
バドミントン	244	287	△43	17%
バレーボール	346	384	△38	10%
柔道	95	68	▼27	-28%
剣道	246	178	▼68	-27%
合計	4,565	3,944	▼621	-13%

	平成元年度	平成30年度	令和4年度
全国の生徒数	5,386,134人	3,288,235人	3,229,698人
千葉県の生徒数	264,054人	157,979人	158,265人
市原市の生徒数	12,893人	6,782人	6,510人

	平成30年度	令和4年度
千葉県内運動部活動に所属する生徒数(延べ人数)	97,905人	93,270人
市原市内運動部活動に所属する生徒数(延べ人数)	4,566人	3,891人
市原市運動部活動設置数	175部	160部
市原市運動部活動 合同チーム 学校数(延べ人数)	7校	11校

## 2. 推進体制

### (1) 役割分担について

- 教育委員会  
学校部活動が地域に移行することで、現状と何が変わり、現状にどういった影響が生じるのかについて確認するため、現行の学校部活動のスタイルのまま、地域クラブ活動を実施した場合のモデル事業を実施する。
- 首長部局  
学校部活動を受け入れる地域の体制を早期に構築するため、多くの関係者を巻き込みながら、令和6～7年度において、地域クラブ活動の将来展開をイメージしたモデル事業を実施する。

### (2) 組織による事務分掌

教育振興部	指導課	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 教職員研修に関する事</li><li>2. 教育指導に関する事</li><li>3. 研究学校、研究園に関する事</li><li>4. 教科書採択事務に関する事</li><li>5. 教科書無償給与に関する事</li><li>6. <b>教育課程に関する事</b></li><li>7. 生徒指導に関する事</li><li>8. 学校安全教育指導に関する事</li><li>9. 学校の危機管理に関する事</li><li>10. 学校運営協議会に関する事</li></ol>	市原市教育委員会 行政組織規則
地方創生部	地方創生課	<ol style="list-style-type: none"><li>1. まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定及び進行管理に関する事。</li><li>2. 地方創生事業の推進及び総合調整に関する事。</li><li>3. 地方創生に関する調査及び研究に関する事。</li><li>4. 市民文化に関する事。</li><li>5. 芸術、文化団体との連携に関する事。</li><li>6. 公益財団法人市原市文化振興財団との連絡調整に関する事。</li><li>7. 市民会館に関する事。</li><li>8. <b>社会体育に関する事。</b></li><li>9. <b>スポーツの振興に関する事。</b></li><li>10. <b>学校体育施設の開放に関する事。</b></li><li>11. <b>ホームタウン施策に関する事。</b></li><li>12. 芸術祭推進室に関する事。</li></ol>	市原市 行政組織規則

### 3. 令和5年度の取組

#### (1) 推進アドバイザーについて

・帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科 馬場宏輝教授

#### (2) 検討会議について

##### ①メンバー

・学識(推進アドバイザー)、スポーツ関係団体(スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員)、教育関係団体(中学校長会、小中学校体育連盟)、保護者代表(市原市PTA連絡協議会)、行政(地方創生部、教育委員会)

##### ②概要

・その目的は「市原市立中学校における部活動の地域移行のあり方等を総合的に検討するとともに、各関係団体との連絡調整を図る」もの

・検討会議は、あくまでも関係者の協議の場であり、市に対する提言等は、附属機関である市スポーツ推進審議会の議を経て行うこととする

・本年度は予算事業であるモデル事業の実施方針及び進捗管理、来年度以降の計画的な事業計画を検討することとした。(下表のとおり)

##### ③現在までの具体の取組

・R6年度事業の検討に先立ち、アンケート調査を実施(中1・2生徒及び保護者 小5・6児童及び保護者 小中学校教職員 競技団体)

#### 【検討会議の主な議事内容】

回数	時期	議 題
第1回	5月	・市原市部活動の地域移行に係る検討会議について
第2回	7月	・モデル事業(案)の実施と検証について ・次への展開に向けての情報収集等について
第3回	9月	・課題及び対応、次期取組の検討
第4回	12月	・令和5年度モデル事業の進捗状況について ・今後の取組(令和6年度事業案)について
第5回	2月	・第4回検討会議協議事項についての継続協議 ・(仮称)プログラム作成部会の設置について

#### (3) モデル事業(ソフトボール競技)の実施状況について

##### ■ソフトボールクラブの検証

- ① 地域移行した場合の費用負担の検証
  - ・生徒・指導者の保険料や指導者への報償費等
- ② クラブ運営の把握
  - ・規約等クラブ立ち上げからクラブ運営等
- ③ 競技全体の状況や課題の把握
  - ・各競技の小中体連主催の大会の参加条件の把握等
- ④ 兼職兼業のあり方
  - ・教職員の兼職兼業の地域指導者としての服務について等

##### 【ソフトボール部設置校】

- |                  |                  |                     |
|------------------|------------------|---------------------|
| ○八幡中学校           | }ソフトボール部(合同部活動)→ | 八幡・菊間ソフトボールクラブ(15名) |
| ○菊間中学校           |                  |                     |
| ○ちはら台南中学校ソフトボール部 | →                | ちはら台南ソフトボールクラブ(11名) |
| ○ちはら台西中学校ソフトボール部 | →                | ちはら台西ソフトボールクラブ(18名) |

総合体育大会終了、各学校新チームの体制のタイミングで休日のクラブ活動検証開始  
ソフトボール新人戦・・・9月24日(日) 八幡運動公園サッカー場

#### (4) 令和6年度の方向性

##### 【教育委員会】

- ソフトボールクラブの検証(1年間を通じて)
- 令和7年度に向けた準備(他の方法による部活動地域移行の検討と体制づくり)

##### 【地方創生課】

- 指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築
- 指導者育成(種目別プログラム)及び地域クラブ活動モデル構築(スポーツ教室)の2事業を実施

※両課で次年度の方向性を検討し、推進計画の作成に活かしていく。

## 4. 令和6年度の取組 ①指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築

### 【ねらい】

- 休日の地域移行期間は、地域でクラブ活動をすることの慣らし期間、平日移行を見据えた準備期間と捉え、指導者育成、地域クラブ活動発足の機運醸成のための事業をメインに展開し、R6年度は「**指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築**」、「**指導者育成(競技別プログラム)及び地域クラブ活動モデル構築(スポーツ教室)**」の2事業を実施する。⇒ R6予算額 789千円(報償費)
- 千葉県ガイドラインにおいて、R7年度末までに策定が求められている推進計画への準備に資するものとする。



### 【指導者及び地域クラブ登録・認証基準構築】

#### 1. 事業概要

部活動の地域移行にあたり大きな課題となる「指導者の質の保障と量の確保策」「地域クラブ活動の要件の明確化」のため、市原市部活動の地域移行検討会議(以下 検討会議)に「**スポーツ指導者の育成に係るプログラム等作成部会(以下 部会)**」を設置し、右の取り組みを行う。

#### 2. 部会メンバー(リモート会議、書面参加など多様な参加方法による運営を検討)

- アドバイザー(馬場教授)
- 検討会議委員(市スポーツ協会、小中学校体育連盟)
- 関係団体(大学、弁護士・医師・栄養士、商工会議所、消防局等)
- トップスポーツチーム(ジェフユナイテッド市原・千葉、VONDS市原、千葉ZELVA等を予定)

### 【全体スキーム】

#### 1. 指導者認証基準(ベースプログラム及び競技別プログラム)作成

- 日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者 共通科目スタートコーチに準拠
- 中央競技団体による運動部活動用指導手引を活用

#### 2. 講習会の実施

- 1日6H程度の講義をイメージして設計

#### 3. 補完プログラム講習会の実施

- ①救急救命・熱中症
- ②応急処置(RICE処置・テーピング)
- ③スポーツ医科学・栄養学
- ④暴力・ハラスメント行為、訴訟対応等

#### 4. 地域クラブ活動認証基準の作成

- **総合型地域SCの登録・認証制度**(指導者配置、安全管理体制、ガバナンス)を参考
- **スポーツ団体ガバナンスコードの活用** 大会参加基準との整合

#### 5. 登録バンクの構築

- 指導者・クラブの認証、協会登録の有無、受講履歴等を登載 マッチングの仕組みを構築

#### 6. 運用方針の策定

- (公財)市スポーツ協会へのコーディネーターを配置した相談窓口の設置、及び部会メンバー等による**バックアップ体制の構築**
- 単一種目クラブの乱立により、活動場所の不足が生じることが予想されるため、施設利用に際し、条件面の工夫が必要



## 5. 令和6年度の取組 ②指導者育成(競技別プログラム)及び地域クラブ活動モデル構築(スポーツ教室)

### 【ねらい】

- ①の指導者育成(ベースプログラム)に加え、競技団体及びトップスポーツチームの支援を受けながら、「市競技団体による指導者育成スキーム(競技別プログラム)の構築」及び「地域クラブ活動を想定したスポーツ教室の実施」を通じて、学校部活動の代替の役割にふさわしい地域クラブ活動のモデルを構築しようとするもの。
- このモデルは、指導者ごと、クラブごとによって活動に大きな違いが生じることのないよう、標準例を示すこと及び水準の維持を図ることをねらいとする。
- 指導にあたっては、NF(中央競技団体)による運動部活動用指導手引を活用

### 【事業内容】

#### 1. 概要

- アンケート結果に基づき、多様な体験機会及び個のレベルアップ機会を提供
- 対象種目は、R6(屋内): バレーボール(男子)、剣道 R7(屋外): サッカー(女子)、陸上
- 月2回 全12回開催を予定
- 初回は、指導者を希望する者を対象としたガイダンス講習会を開催
  - ⇒ 上記講習会は、**モデル事業終了後、各競技団体の主管により定期的に開催**
- 2回以降は、上記講習会受講者による指導実習を兼ね、日常の地域クラブ活動を想定しながらスポーツ教室として競技団体・大学等の支援、監修のもとに実施
- 全工程終了後、標準運営マニュアルを作成 ⇒ **確定後は自律的な地域クラブの運営に活用**

#### 2. 活動場所

- 市公共施設または指定中学校

#### 3. 参加者

##### ① 指導者

- 資格取得者(JSPO公認資格、競技団体資格、市のベースプログラム受講者)を対象
- 市スポーツ協会・加盟団体を通じ募集

##### ② 生徒

- 市内中学生
- 前期・後期で募集(R6年度は後期での実施を予定)
- ガチクラス(競技志向)・ゆるクラス(体験志向)の2カテゴリーを用意
- 教育委員会を通じて各学校に募集

### 【活動イメージ】



## 2022年度から教員免許状所持者向けの公認スポーツ指導者資格を創設

JSPPOは、2022年度から教員免許状所持者向けの新たな資格として、すでに養成を開始している競技別指導者資格のスタートコーチ資格のひとつとして「スタートコーチ(教員免許状所持者)」の養成を開始することになりました。

これは、運動部活動改革として運動部活動を地域に移行し「新たな地域スポーツ環境」を構築する取り組みの中で、資質能力を身に付けた指導者の確保・育成が急務となっていることに対応するものです。

JSPPOでは、スポーツ指導の専門家として、『コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」』に基づき、JSPPO公認スポーツ指導者を養成しており、2021年10月現在、約20万人を認定しています。その多くは、すでに指導現場を持っているため、これから構築される「新たな地域スポーツ環境」においても指導可能な人数には限りがあります。そのため、運動部活動の顧問をされている教員のうち、スポーツ指導に積極的な教員については、兼職兼業の許可を得て「新たな地域スポーツ環境」でも指導いただけるように、新たに創設する「スタートコーチ(教員免許状所持者)」資格も含めて、JSPPO公認スポーツ指導者資格を取得いただきたいと考えています。

そのため、すでに特定のスポーツの専門的な指導を行っている(行うことが決まっている)方で、当該競技においてスタートコーチ資格やコーチ1以上の資格が養成されている場合は、当該資格の取得もご検討ください。

JSPPOおよびJSPPO加盟団体等は、本取り組みも含め、学校運動部活動やその指導者(教員や部活動指導員・外部指導者)を支援する各種取り組み(公認スポーツ指導者の育成等)を充実させることによって、生徒それぞれが望むライフステージに応じた多様なスポーツ活動の実現に貢献してまいります。

日本スポーツ協会HP (2022/01/13)

### 日本スポーツ協会公認スタートコーチ(教員免許状所持者) 養成講習会 開催要項

#### 3. カリキュラム:

##### (1) 共通科目: 15 時間

1.	コーチングを理解しよう
2.	グッドコーチに求められる医・科学的知識
3.	現場・環境に応じたコーチング

##### (2) 専門科目: 4 時間

1.	ハラスメントの考え方
2.	スポーツ現場におけるハラスメントの防止について

競技別スタートコーチの場合、  
ここが競技専門科目となる

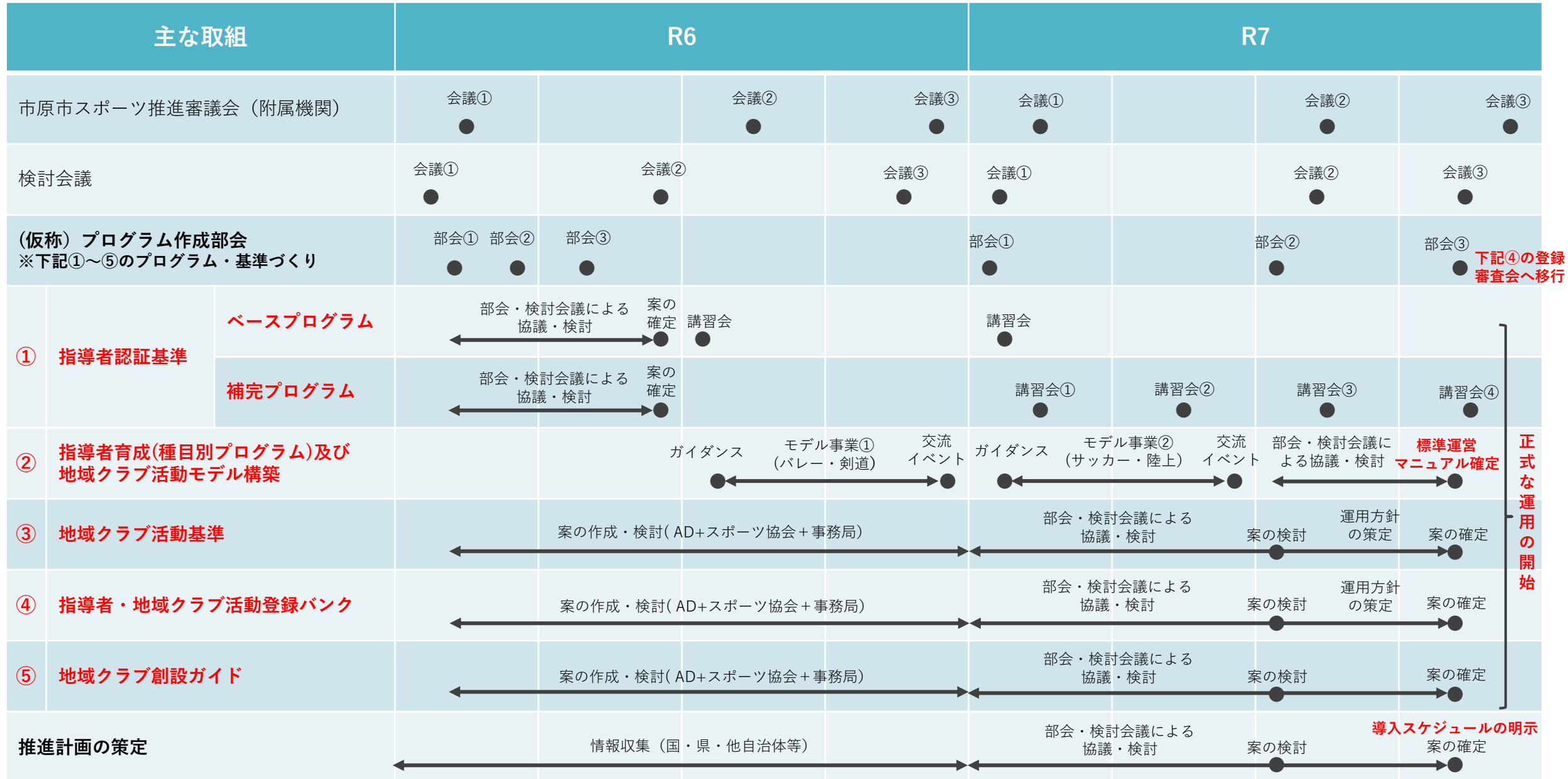
## モデル・コア・カリキュラム

※必要最低時間数は体育系大学での導入を想定したもの

資質能力区分	領域	主な内容	必要最低時間数			
			基礎	応用実践	計	
人間力	思考・判断	プレーヤーとともに学び続けるコーチ	9h	18h	27h	
		コーチング及びコーチとは				
		コーチに求められる資質能力				
		スポーツの意義と価値				
		コーチの倫理観・規範意識				
	コーチの役割と使命(職務)					
	計	9h	18h	27h		
態度・行動	対自分力	多様な思考法	6h	12h	18h	
		コーチのセルフ・コントロール				
	対他者力	コーチのキャリア・デザイン	6h	12h	18h	
	コミュニケーション					
	人的環境(関係者との信頼関係)の構築					
	プレーヤーのキャリア・デザイン	12h	24h	36h		
	計	12h	24h	36h		
知識技能	共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系	9h	18h	27h
			体力トレーニング			
			技術トレーニング			
			メンタルトレーニング			
	共通	スポーツ医・科学	スポーツと健康	9h	18h	27h
			外傷と障害の予防			
			救急処置			
			アンチ・ドーピング			
			スポーツと栄養			
			スポーツの心理			
専門	現場における理解と対応	ライフステージに応じたコーチング	6h	12h	18h	
		プレーヤーの特性に応じたコーチング				
		コーチングにおけるリスクマネジメント				
		クラブ・チームの運営と事業				
		コーチング現場の特徴				
	計	24h	48h	72h		
合計			45h	90h	135h	

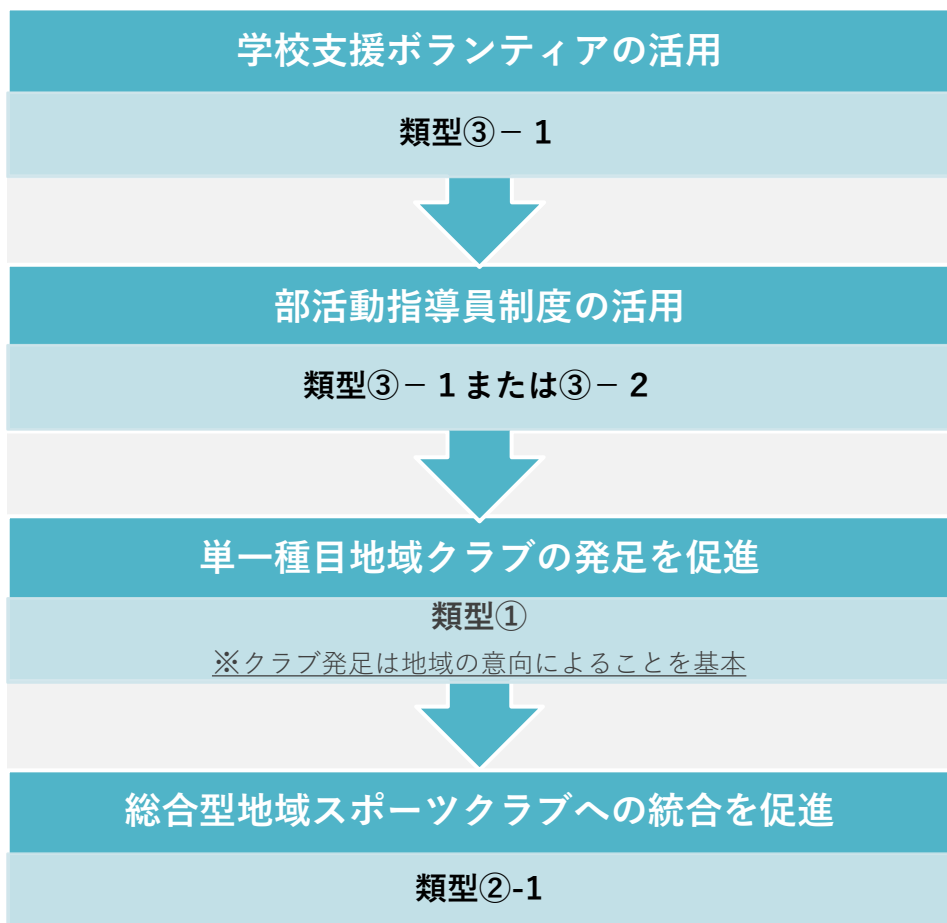
実習	現場実習	コーチングの実践と評価	5日	20日	50h
			10h	40h	

# 5. 今後の展開について

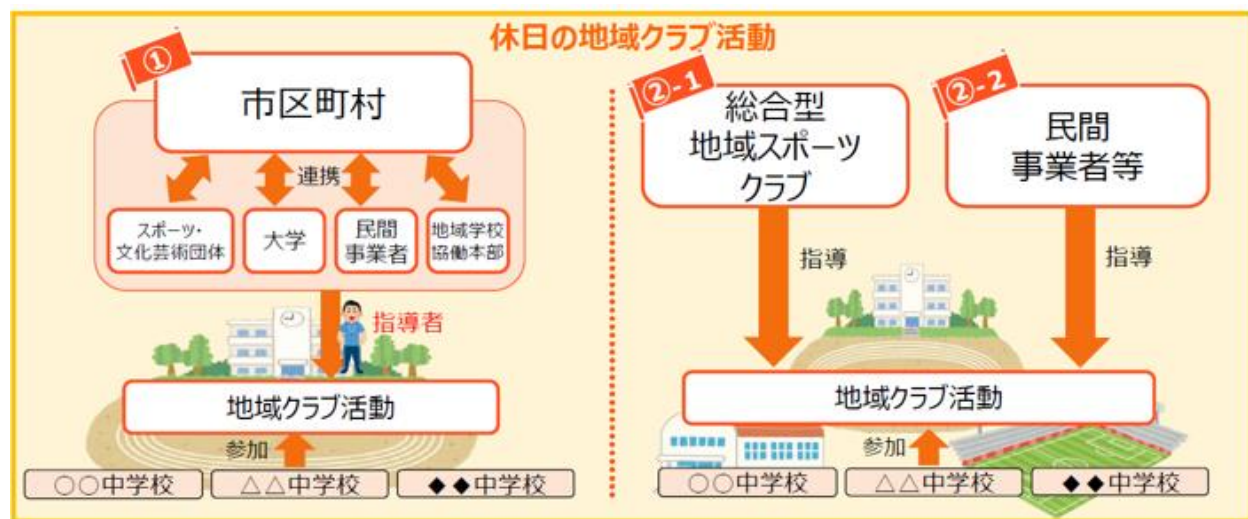
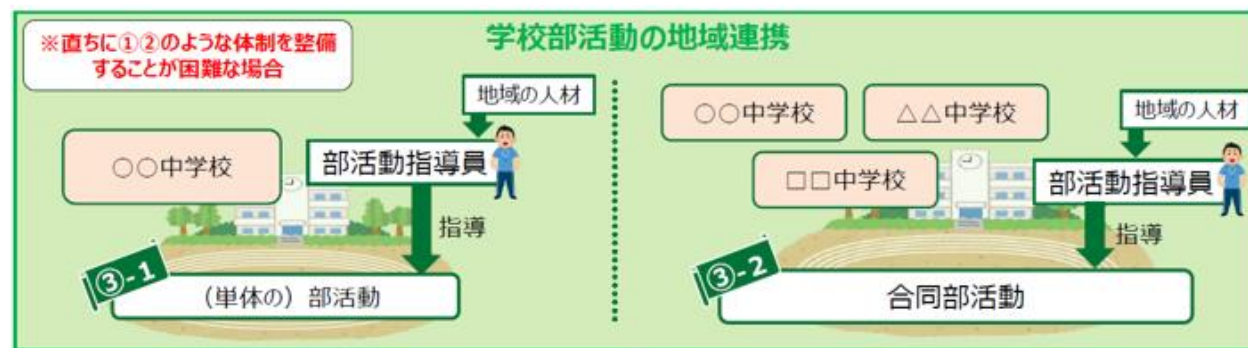


# 6. 類型及び展開イメージについて

- ベースプログラム及び種目別プログラム受講後、認証を受けた指導者に対し、国のガイドラインにて例示されている類型に基づく活動を後押し
- 地域の実情やクラブ発足に向けた熟度に応じて下記を選択（CSや地域学校協働活動などとの同時展開も検討）
- さらに、単一種目地域クラブの発足から総合型地域スポーツクラブへの統合に向けた動きを促進（シナジー効果、人的・物的リソースの最適化）



【参考】「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン(スポーツ庁)」より



---

説明は以上です

ご清聴ありがとうございました